

interfm

The277th Programming Deliberation Committee

第 277 回番組審議会 議事録

開催日 2024 年 4 月 23 日 (火)

出席者：山田吉彦委員長、安藤美冬委員、角田陽一郎委員、長崎亘宏委員、望月理恵委員

1、議題（審議番組）：Kenrocks Nite-Ver.2

放送日時：2024年3月29日（金）24:00-25:00

DJ s：大貫憲章、MARTIN-KIN00、はせはじめ

会社からの説明

毎週金曜日夜中の24時から25時深夜に放送。2011年9月8日から放送開始、メインDJ大貫憲章。はせはじめ、MARTIN-KIN00がサポートとしてそれぞれ2週間ごとに出演。

ロック評論家、DJとして絶大なるキャリアを持つ大貫憲章がメインのDJの音楽プログラム。当時クラブという言葉が無い時代に、新宿ツバキハウスでロックナイトというイベントを立ち上げる等先進的な活動を行う。

ゲストを迎えて、アーティストの想いや音楽に関する思い出、ときには大貫憲章からの音楽業界全体に対する苦言等も語る、音楽好きな人々にむけた番組である。

今回の2024年3月29日0A分は、10年以上続いている番組が新年度を迎えるにあたり、大貫憲章を知らないリスナーや若い世代に向けて改めての「自己紹介」をテーマにして放送。

50代、60代、70代を主なリスナーと想定して制作した番組だが、今後は若い世代をどの様に取り込んで行くかが課題である。大貫憲章、ミュージシャン、若い世代との交流を促進して行きたい。

委員からの意見・感想

審議委員A

今回はスペシャルな要素として、大貫憲章さんの自らのストーリーのようなお話が入っていたので、初めて聞く方は、大貫さんの人となりも分かってすごく良かったのではないかと感じた。ど真ん中のロック、パンクを楽しむこともできた。

しかし、ラジオの近未来に向けて、音楽のインフルエンサー対策のリブランディングの最強化、広がり等、どのように世代をまたいでいくかを考慮する必要がある。この番組は若い人にも通じると思うので、イベント等で活用していくと良いと感じた。

審議委員B

大貫憲章さんの経験、知識はとても貴重であり、ご自身もラジオでは息をするように話しているということおっしゃっている通り、本当にラジオがお好きな方だという印象を受けた。

パーソナリティが男性 2 人というのはあまり好きではないが、今回は大貫憲章さんのマイバックページということで、キルさんとのデジャヴラズなバランスが素晴らしかった。

知らないバンドの音楽にも好奇心が湧いた。曲をもっと聴きたいと思えるような喋り手の力量を感じる。いろんな世代、ジャンルの人達と大貫憲章さんとを交わらせて、ケミストリーを起こしていくのがいいのではないかと思う。

審議委員C

年齢を重ね、歴史、音楽を愛し、経験を重ねてきた人の話は、こんなにエネルギッシュで面白いのかというのが第一印象。それゆえに、知らないアーティストに関しては、番組内での掛け合いの中での補足があったほうが、新しい世代、特に若い世代の人たちが聞きやすいのではないかと思った。

ラジオを通じて、世代を超えた双方向的に共感を広げられると良いのではないかと感じた。

審議委員D

自分が知らない音楽と出会えることが、ラジオの一番の醍醐味だと思う。一方で、知らない名前が出てくると、これは誰だろう？という疑問も生まれてくるので、それでも楽しく聞けるための、ある種の“施策”が必要である。單元ごとに、コーナーを分割して、その前や後ろにガイドとなるような文言を加えるのが良いと思った。

審議委員E

今回、知らない世代に向けての音楽の説明が少なかったもので、若い人たちに向けて、もう少し情報を伝えられたら良かった。40代後半から50、60代のリスナー、特に男性はしっかりとらえていると思う。エッジの効いた番組という印象を受けた。今後も、大貫憲章さんのキャラクターで、経験、音楽を通して様々なことを伝えていただけることを期待したい。

—会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上